

取組概要

当該校は、四日市市西部の田園地帯が広がる小山田地区に位置し、創立148年目をむかえる各学年1学級の小規模校である。

「夢と志を持ち、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成」との学校教育目標のもと、キャリア教育の観点から、これからの社会を生きていくために必要な力を『4つの力（※1）』としてとらえ、すべての教育活動において育成に取り組んでいる。今年度、つながりを大切にしたい学びの実現をめざして児童に理解しやすいよう、これらの4つの力を3つに再構成し、「ほっと」をキーワードとした目指す力（※2）として提示している。

（※1） つながる力…自分の考えや思いを他人に伝え、協力する力

見つめる力…自分のよさに気づき、成長のために進んで行動する力

うごく・いかす力…課題を発見・分析し、計画的に解決する力

めざす力…これからの生き方を考える力

（※2）3つの「ほっと」でつながろう！（HOT（熱い・一生懸命）・ほっとする・ほっとかない）

①赤ほっと「高める力」（いどむ！もくひょうをもつ！たのしむ！）

②青ほっと「関わる力」（うけいれる！つたえる！いっしょに！）

③緑ほっと「向き合う力」（たちどまる！ねばりづよく！じぶんをちょうせい！）

### 1. 児童一人ひとりの発達を踏まえたきめ細かな支援

社会を生きていくために必要な『4つの力』を『3つの力』として整理することで、児童が、学校での様々な学習活動について、どのような力を身に付けていくのかを理解したうえで取り組んでおり、主体的な学習活動が実施されている。

学習活動後には、「振り返りカード」や「キャリア・パスポート」を活用し、『3つの力』をもとに身に付けた力について、児童自らが振り返るとともに、他の学年や保護者等への発信を行っている。振り返り際には、教師が児童の成長した事柄を見取り、対話を通してフィードバックし、児童が自己肯定感の向上や成長の実感を得ることができるよう支援している。

学級担任は、学期ごとに個人面談を実施し、児童一人ひとりに応じたきめ細かな発達支持的な支援を実施している。

### 2. 地域と連携した学習活動

当該校のある小山田地区では、「子孫に残す 元気で住み続けられるまち 小山田」との地区の将来像を策定しており、地域で子どもを育てていこうとする環境がある。その中で、当該校では、地域の方や事業所と連携した様々な取組を実施している。

- ・ 1、2年生での昔遊び体験
- ・ 3、5年生でのしめ縄づくり
- ・ 4年生の車椅子体験や高齢者疑似体験
- ・ 5年生での稲づくり
- ・ 6年生での地域清掃活動
- ・ 全学年でのサツマイモ栽培（お世話になった地域の方々を招き、収穫祭を開催）

これらの地域の教育力を活用した取組では、小規模校ならではの、一人ひとりの児童と地域の方々の深い交流につながり、多くの地域の大人から認めてもらう体験を通じて、児童の自己肯定感を高めたり、地域を愛する気持ちが育まれたりしている。

さらに、地域の「人・もの・こと」等の本物に触れる体験は、児童の知的好奇心を高め、学習意欲の向上へつながっている。

### 3. 多様な価値観や考え方に触れる活動

当該校は、各学年1学級の小規模校であり、校内や地域の学習だけでは、多様な考えや価値観に触れる機会が少ないことから、すべての学年で市内の他の小学校と、オンラインを活用した遠隔授業や互いの小学校へ訪問する合同交流授業に取り組んでいる。

また、行事に取り組む際には、1年生から6年生の縦割り班活動を取り入れ、異学年で話し合う活動も行っている。

他校の児童や異なる学年の児童と交流することで、問題解決に係る多様な考えに触れることや他者へ理解されるよう工夫した伝え方を学ぶなど、「つながる力」の育成につなげている。

#### 4. 取組の成果

全国学力・学習状況調査では、「学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均値を大きく上回るとともに、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」「将来の夢や目標を持っている」「地域社会をよくするために何かしてみたい」の項目においても、全国平均値を上回っている。

学校が設定した「つながる力」「見つめる力」「うごく・いかす力」「めざす力」を育成するために様々な取組を実施してきたことが、児童の主体性や地域への愛着を育み、肯定的な回答につながっていると考えられる。

【ホームページ】 <http://www.yokkaichi.ed.jp/~oyamada/cms2/htdocs/index.php>